

○ 政策目標6-1：外国為替市場の安定並びにアジア地域を含む国際金融システムの安定に向けた制度強化及びその適切な運用の確保

政策目標の内容及び
目標設定の考え方

世界各国の経済の相互連関が深まり、国際的な資金移動が活発化する中で、我が国と外国との間の資金移動が円滑に行われる環境を整えるとともに、国際金融システムを安定させることが重要となっています。

このような認識の下、財務省では、外国為替及び外国貿易法（昭和24年12月1日法律第228号。以下「外為法」といいます。）に基づいて外国為替制度の運営に当たるとともに、国際金融システムの安定に向けた制度強化に取り組んでいます。特に、我が国と密接な経済的結びつきを有するアジア地域の経済の安定は重要であり、域内における地域金融協力を更に強化していきます。また、テロ資金供与や大量破壊兵器の拡散への資金支援といった国際金融システムの濫用の防止にも取り組んでいきます。併せて、我が国に対する対内直接投資を審査する制度の適正な運用を行います。

上記の「政策目標」を達成するための「施策」

政6-1-1：外国為替市場の安定

政6-1-2：国際金融システムの安定に向けた制度強化に関する国際的な取組への参画

政6-1-3：アジアにおける地域金融協力の推進

政6-1-4：テロ資金や北朝鮮の核関連及び大量破壊兵器の拡散等に関連する資金等による国際金融システムの濫用への対応

政6-1-5：対内直接投資審査制度の適正な運用

関連する内閣の基本方針

○ 「世界一安全な日本」創造戦略（平成25年12月10日決定）

施策 政6-1-1：外国為替市場の安定

取組内容

為替レートは、経済ファンダメンタルズ（経済の基礎的状況）を反映しつつ、安定的に推移することが重要であると考えます。通貨当局として、G7（用語集参照）財務大臣・中央銀行総裁会議声明やG20（用語集参照）財務大臣・中央銀行総裁会議声明で確認されている考え方を踏まえつつ、引き続き、各国の通貨当局との意見交換や国際協調等を行うなど、外国為替相場の安定に向けて取り組みます。

A 外国為替市場の安定化に向けた取組

平成31年初からも、世界経済の緩やかな回復が続く中、金融・為替市場において、米国、欧州、中国の政治・経済の動向などを意識した動きが時折見られました。

イタリア・バーリでの、G7財務大臣・中央銀行総裁会議（平成29年5月12-13日）では、「為替レートは市場において決定されること」、「競争力のために為替レートを目標にはしないこと」、「為替レートの過度の変動や無秩序な動きは、経済及び金融の安定に対して悪影響を与え得ること」等を再確認しましたが、こうした為替に関する認識をG7シャルルボワサミット（平成30年6月8-9日）においても首脳間で再確認いたしました。

また、G20福岡財務大臣・中央銀行総裁会議（令和元年6月8日-9日）やG20大阪サミット（令和元年6月28日-29日）においては、G20ブエノスアイレス財務大臣・中央銀行総

裁会議（平成30年3月19-20日）の共同声明において共有された、「強固なファンダメンタルズや健全な政策、強靱な国際通貨システムは、為替レートの安定に不可欠であり、強固で持続可能な成長や投資に貢献する」、「柔軟な為替レートは、場合によっては、ショックを吸収するものになりうる」、「為替レートの過度な変動や無秩序な動きが、経済及び金融の安定に対して悪影響を与え得る」などの認識を改めて確認し、共有しました。

国内においては、政策当局のより緊密な連携を目的とする、財務省・金融庁・日本銀行からなる国際金融資本市場に係る情報交換会合を引き続き開催し、有事の際には、市場の急激な動きを受けて直ちに会合を開催するなど、政府として迅速な対応を行っています。

財務省としては、引き続き関係機関と緊密に連携しつつ、G7、G20等における国際的な議論に積極的に参画し、各国の通貨当局との意見交換や国際協調等を行っています。

B 外国為替平衡操作実施状況、国際収支等の適切な公表

外国為替市場の安定に資するため、外国為替平衡操作実施状況・外貨準備等の状況について、引き続き正確にかつ適時公表を行っています。「国際収支統計」、「対外及び対内証券売買契約等の状況」等も、対外的な資金の流れに関して、市場に対する正確かつ適時な情報の提供、及び経常収支・金融収支の動向の把握といった観点から重要です。そのため国際収支統計は、内閣府において作成・公表される「国民経済計算」の基礎統計ともなっており、適切な作成・公表を行っています。

定性的な測定指標

〔主要〕 政6-1-1-B-1：外国為替市場の安定に向けた取組

（令和2年度目標）

G7/G20財務大臣・中央銀行総裁会議声明で確認されている考え方を踏まえつつ、引き続き、各国の通貨当局との意見交換や国際協調等を行う。国内においては、金融庁・日本銀行とより緊密な連携を図ります。

（目標の設定の根拠）

外国為替市場の安定のためには、国際協調や金融庁・日本銀行との連携が重要であるためです。

定量的な測定指標

〔主要〕 政6-1-1-A-1：外国 為替平衡操作実施状 況、外貨準備の状況 等の正確かつ適時な 情報の提供		作成 頻度	平成 28年度	29年度	30年度	令和 元年度	2年度 目標値
外国為替平衡操作 実施状況（月ベー ス）	月1回	12/12	12/12	12/12	12/12	N.A.	12/12 公表対象期間の 最終日から第5 営業日までに公 表
外国為替平衡操作 実施状況（日ベー ス）	年4回	4/4	4/4	4/4	4/4	N.A.	4/4 公表四半期の 翌々月の第5営 業日までに公表
外貨準備等の状況	月1回	12/12	12/12	12/12	12/12	N.A.	12/12 公表対象月の翌 月の第5営業日 までに公表
外国為替資金特別 会計の外貨建資産 の内訳及び運用収 入の内訳等	年1回	1/1	1/1	1/1	1/1	N.A.	1/1 公表対象年度の 決算書国会提出 の翌月までに公 表

[主要] 政6-1-1-A-2：国際収支状況等の正確かつ適時な情報の提供	国際収支状況	月 1 回	12/12	12/12	12/12	N. A.	12/12 公表対象月の翌々月第10営業日までに公表
	本邦対外資産負債残高	年 1 回	1/1	1/1	1/1	N. A.	1/1 公表対象年末から5か月以内に公表
	オフショア勘定残高	月 1 回	12/12	12/12	12/12	N. A.	12/12 公表対象月の翌々月末までに公表
	対外及び対内証券売買契約等の状況	月 1 回	12/12	12/12	12/12	N. A.	12/12 公表対象月の翌月の10営業日までに公表
	達成割合			100%	100%	100%	N. A.

(注) 令和元年度実績値は、令和2年6月末までにデータが確定するため、令和元年度実績評価書に掲載予定。

国際収支状況
[＜https://www.mof.go.jp/international_policy/reference/balance_of_payments/data.htm＞](https://www.mof.go.jp/international_policy/reference/balance_of_payments/data.htm)
 本邦対外資産負債残高
[＜https://www.mof.go.jp/international_policy/reference/iip/data.htm＞](https://www.mof.go.jp/international_policy/reference/iip/data.htm)
 外貨準備等の状況
[＜https://www.mof.go.jp/international_policy/reference/official_reserve_assets/data.htm＞](https://www.mof.go.jp/international_policy/reference/official_reserve_assets/data.htm)
 外国為替資金特別会計の外貨建資産の内訳及び運用収入の内訳等
[＜https://www.mof.go.jp/international_policy/reference/gaitametokkai/index.htm＞](https://www.mof.go.jp/international_policy/reference/gaitametokkai/index.htm)
 外国為替平衡操作実施状況
[＜https://www.mof.go.jp/international_policy/reference/feio/data.htm＞](https://www.mof.go.jp/international_policy/reference/feio/data.htm)
 オフショア勘定残高
[＜https://www.mof.go.jp/international_policy/reference/offshore/data.htm＞](https://www.mof.go.jp/international_policy/reference/offshore/data.htm)
 対外及び対内証券売買契約等の状況（週次でも公表）
[＜https://www.mof.go.jp/international_policy/reference/itn_transactions_in_securities/data.htm＞](https://www.mof.go.jp/international_policy/reference/itn_transactions_in_securities/data.htm)

(出所) 国際局為替市場課

(目標値の設定の根拠)

外国為替市場の安定に資するため、外国為替平衡操作実施状況・外貨準備等の状況について、引き続き正確にかつ適時に公表することとし、また、市場に対する正確かつ適時な情報の提供、及び経常収支・金融収支の動向の把握といった観点から国際収支状況等について適切な作成・公表を行うために上記目標値を設定しました。

今回廃止した測定指標とその理由

該当なし

参考指標

- 参考指標 1 「為替相場の動向」
- 参考指標 2 「国際収支動向」
- 参考指標 3 「対外資産負債残高」
- 参考指標 4 「外貨準備動向」
- 参考指標 5 「外国為替平衡操作の実施状況」

施策

政6-1-2：国際金融システムの安定に向けた制度強化に関する国際的な取組への参画

取組内容

A 国際金融システムの安定
 強固・持続可能で、均衡ある、かつ包摂的な世界経済の成長を生み出すために、引き続き、G 7、G20等の枠組みを通じ、各国と一層協働して国際金融システムの安定に向けた取組を進

めていきます。とりわけ、G20サミットは、平成20年秋の金融危機発生による混乱が実体経済にまで波及し、世界経済の先行きに対する懸念が急速に高まる中で、新興国を含めた枠組みによって対応を議論する必要性が認識されて発足したものであり、国際経済協力に関する第一のフォーラムとされています。令和元年、日本はG20の議長国を務め、高齢化やグローバル・インバランスなどの議題を取り上げ、議論を牽引しました。令和2年のサウジアラビア議長下や令和3年イタリア議長下においても、日本議長国の成果の礎にたつて、国際課税やグローバル・ステーブルコインなどの諸課題に対応するべく貢献を続けます。今後も、国際金融システムの安定化に向けて、G20を含めたこれらの枠組みに積極的に参画していきます。

B 国際通貨基金（IMF）の議論への参画

平成20年秋の金融危機発生以降、国際通貨基金（IMF：用語集参照）は、加盟国が危機から脱却する上で極めて重要な役割を果たしてきました。

また、IMFは、危機予防目的の資金支援等や、加盟国へのサーベイランス（政策監視）の一層の強化、G7、G20への技術的なインプット等、様々な役割を期待されています。

我が国は、平成28年に延長に合意した600億ドルのIMFへの資金貢献取極の令和2年末までの継続など、IMFの資金基盤強化にも積極的に貢献しています。

クォータ（出資割当額）の見直し等の包括的なIMF改革についても、クォータの倍増と新興国等のシェア（投票権）の上昇等を内容とする平成22年改革が平成28年1月に発効し、令和2年2月に第15次一般クォータ見直しが完了しました。我が国は、IMFを通じて国際金融システムの安定を実現すべく、こうしたIMFの議論に積極的に参画し、IMFの更なる機能強化に取り組んでいきます。加えて、IMFが真にグローバルな機関として、その役割を果たすためには、スタッフの多様性確保が重要であり、我が国は、日本人スタッフの増加のために努力も続けていきます。

以上のような、G7、G20、IMF等における議論へ積極的に参画することを通じて、国際金融システムの安定化を目指していくことは極めて重要であり、これに取り組んでいきます。

定性的な測定指標

[主要] 政6-1-2-B-1：国際金融システムの安定に向けた国際的な協力への参画

(令和2年度目標)

G7、G20等の国際的な枠組みにおいて積極的に議論に貢献します。また、IMFをはじめとする国際機関及び各国の財務金融当局等との政策対話も積極的に行います。

(目標の設定の根拠)

国際金融システムの安定を実現し、強固・持続可能で、均衡ある、かつ包摂的な世界経済の成長を生み出すためには国際的な協力が重要なためです。

定量的な測定指標

政6-1-2-A-1：IMFによるサーベイランスの実施状況（経済の健全性の調査の実施回数）	年度	平成28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度目標値
		目標値	実績値	実績値	実績値	実績値
目標値	二国間	-	-	-	124	120
	多国間	-	-	-	19	19
実績値	二国間	117	135	136	119	
	多国間	19	19	19	19	

(出所) IMF Annual Report、<https://www.imf.org/external/research/index.aspx>

(目標値の設定の根拠)

国際金融システムの安定を実現するためには IMF を通じた取組が重要であるため、二国間については IMF による二国間サーベイランス（経済の健全性の調査）を実施した回数について、過去10年間の平均値を基準としつつ、前年の実績よりも上回る数値を目標として設定しました。また、多国間については、IMF の各種の多国間サーベイランスレポートの公表回数を基に、今後も同数の公表を継続していくことを目標値としました。

今回廃止した測定指標とその理由

○ (旧) 政 6-1-2-B-1 : G20 議長国として世界経済の持続可能で包摂的な成長の実現のための基盤づくりに向けた議論を牽引する取組

(理由)

昨年度は、日本が初めて G20 議長国を務めたことから、積極的に議論や会議運営等を牽引すること、成果を打ち出すことを目標と設定し、新たに政策評価の対象としました。しかしながら、本年度はすでに議長国の任を外れており、「G20 議長国としての取組」を評価の対象とすることはできないと考えたため、本測定指標を廃止いたしました。なお、今後の G20 においても、日本が議長国として取り組んだ成果を踏まえた G20 への貢献については、引き続き評価していくことといたします。

参考指標

- 参考指標 1 「国際通貨基金 (IMF) への主要国出資」
- 参考指標 2 「IMF の融資状況」
- 参考指標 3 「IMF のキャパシティ・ビルディングの実施状況」
- 参考指標 4 「IMF の業績評価」
- 参考指標 5 「IMF における日本人職員数等 (日本人幹部職員等を含む)」
- 参考指標 6 「IMF のセーフティネットの規模」

施策 政6-1-3 : アジアにおける地域金融協力の推進

取組内容

アジア地域は、底堅い内需により堅調な成長を続けているものの、グローバル経済・金融環境の変化により、地域経済及び金融市場が影響を受けるリスクが存在します。こうしたリスクが顕在化した場合でも、地域金融市場の安定を維持するには平素からの金融協力が重要です。

日本は、令和 2 年 1 月よりベトナムとともに共同議長を務める ASEAN+3 (用語集参照) (日中韓) 財務大臣・中央銀行総裁会議等において、チェンマイ・イニシアティブ (用語集参照) をはじめとする多国間の地域金融協力の更なる強化に関する議論を牽引していきます。

二国間の金融協力についても、二国間通貨スワップ取極 (用語集参照) の締結や現地通貨の利用促進のための協力などを引き続き積極的に進めていきます。

A 多国間の地域金融協力

アジアにおける多国間の地域金融協力の枠組みである ASEAN+3 財務大臣・中央銀行総裁会議において、我が国はこれまで、アジア通貨危機を踏まえ、危機時に外貨資金 (ドル) を相互に融通するためのセーフティネットであるチェンマイ・イニシアティブの設立や機能強化を主導するなど、その議論の進展に積極的に貢献してきました。我が国は、令和 2 年 1 月よりベトナムとともに共同議長を務める第 23 回 ASEAN+3 財務大臣・中央銀行総裁会議 (令和 2 年 5 月) の機会も活用しつつ、アジアの金融安定に向けてチェンマイ・イニシアティブの更なる強化のための議論を主導していきます。

また、ASEAN+3 域内の経済情勢の監視を行うとともに、「ASEAN+3 マクロ経

済リサーチ・オフィス（AMRO）」（用語集参照）のサーベイランス能力及び組織能力を強化する取組を引き続き支援していきます。

さらに、平成15年8月から開始したアジア債券市場育成イニシアティブ（用語集参照）については、今後取り組む重点分野等を明確化した新中期ロードマップを令和元年5月に策定するなど活発な議論が行われているところです。また、同イニシアティブのもと平成22年11月に創設された信用保証・投資ファシリティ（CGIF）（用語集参照）は、現地通貨建て債券への保証を行っています（令和元年11月末時点で累計31件、累積保証残高1,638百万米ドル）。こうした取組を通じて、域内現地通貨建て債券の発行体や債券の種類が多様化する等、既に多くの成果が実現しており、同イニシアティブが開始する直前の平成14年末と比べ、ASEAN+3の現地通貨建て債券市場の規模は約11倍に拡大しています。我が国は、引き続き、アジアの金融市場の安定に資するべく、本イニシアティブに積極的に貢献し、アジア金融市場の環境整備支援を推進していきます。

その他、ASEAN地域の自然災害リスクへの財務強靱性を強化させることを目的とする東南アジア災害リスク保険ファシリティ（SEADRIF: Southeast Asia Disaster Risk Insurance Facility）（用語集参照）については、平成31年4月にSEADRIF保険会社が設立され、ラオス・ミャンマーを対象とした災害保険の開始に向けた取組が着実に進展しており、今後も、同ファシリティの活動を支援していきます。

B 二国間の金融協力

さらに、こうした多国間（マルチ）の地域協力の枠組に加え、二国間（バイ）の取組も重要です。特に、中国、韓国、インド等のアジアの国々との関係は、我が国の持続的成長のために重要です。中国との間では、平成30年5月の日中首脳会談で早期実現することが合意された邦銀の人民元クリアリングバンクとしての指定や邦銀への債券引受（平幹事）ライセンスの付与が実現しました。インドとの間では、資本市場の育成や金融規制についてのディスカッションや両国のマクロ経済についての情報交換を行っているほか、平成31年2月に二国間通貨スワップ取極を締結しています。引き続きこれらの国との金融協力を推進していきます。

また、ASEAN諸国との関係においては、日本財務省は、チェンマイ・イニシアティブの補完として、インドネシア、シンガポール、タイ、フィリピンの4カ国との間で二国間通貨スワップ取極を締結しています（令和2年2月時点）。これらの取極を通じて、ASEAN地域の金融安定強化に引き続き貢献していきます。また、日本円と現地通貨の直接取引を促進させる観点から、令和元年5月にフィリピン中央銀行との間で日本円=フィリピン・ペソ直接交換に関する意向表明書に署名し、次いで同年12月にはインドネシア中央銀行との間で現地通貨の利用促進に係る協力覚書を締結しており、今後もこれらの取組を強化・拡大することで、各国の現地通貨の利用促進による、同地域の安定的な金融市場の実現に貢献していきます。

定性的な測定指標

[主要] 政6-1-3-B-1：アジアの金融市場における安定のための地域金融協力の取組

(令和2年度目標)

共同議長国を務める立場から、ASEAN+3財務大臣・中央銀行総裁会議等における、チェンマイ・イニシアティブやアジア債券市場育成イニシアティブ、SEADRIF等の地域金融協力の議論を主導していきます。

(目標の設定の根拠)

アジア地域での金融協力を強化することが、地域金融市場の安定を図る上で重要なためです。

[主要] 政6-1-3-B-2：アジア各国との二国間金融協力の取組【新】**(令和2年度目標)**

金融関係の規制緩和に向けた相手国への要望を含め、アジア各国との金融協力に関する二国間の対話を引き続き実施していくほか、二国間通貨スワップ取極の継続・拡充や現地通貨の利用促進のための協力といった取組を引き続き推進していきます。

(目標の設定の根拠)

アジア各国との二国間金融協力の取組の推進は、地域の金融安定強化・各国との関係強化を図る上で重要なためです。

定量的な測定指標

政6-1-3-A-1：サーベイランスの実施状況（ASEAN+3 財務大臣・中央銀行総裁プロセスにおける実施回数（代理レベル含む））	年度	平成28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度目標値
目標値		-	-	-	3	2
実績値		3	3	3	3	

(注) 例年4月に開催する春の代理レベル会合でサーベイランスを実施しているところ、令和2年における春の代理レベル会合は中止となったことから、過去の実績を踏まえ、令和2年度の目標値を2に設定しました。

(出所) ASEAN事務局、財務省国際局地域協力課

(目標値の設定の根拠)

アジアにおける地域金融協力の推進のために、ASEAN+3 財務大臣・中央銀行プロセスを通じたサーベイランスの実施が重要であることから、過去の実績を踏まえ、上記目標値を設定しました。

政6-1-3-A-2：ASEAN+3における現地通貨建て債券による資金調達の状況（現地通貨建て債券市場の債券残高）	年度	平成28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度目標値
目標値		-	-	-	-	令和元年度実績値と同額以上
実績値 (単位：10億米ドル)		10,179	12,281	13,099	N. A.	

(注1) 歴年年末時点の残高を米ドル換算で表示。

(注2) 令和元年度の実績値は、令和2年6月頃に確定し、令和元年度の実績評価書に記載します。

(出所) Asian Bonds Online

(目標値の設定の根拠)

アジアにおける地域金融協力の推進の観点から、現地通貨建て債券の発行促進を進めていくことが重要であることから、これまでの実績を踏まえつつ、令和元年度と同額以上を目標値として設定します。

今回廃止した測定指標とその理由

該当なし

参考指標

- 参考指標1 「チェンマイ・イニシアティブのマルチ化における各国の貢献額と買入可能総額」
- 参考指標2 「日本—AMRO特別信託基金が実施するメンバー国向けのキャパシティ・ビルディングの実施件数」
- 参考指標3 「アジア諸国との二国間通貨スワップ取極」

施策	政6-1-4：テロ資金や北朝鮮の核関連及び大量破壊兵器の拡散等に関連する資金等による国際金融システムの濫用への対応						
取組内容	<p>国際社会の平和と安全を脅かすテロリストの活動や現在の核不拡散体制に対する大きな脅威である北朝鮮の核開発等の問題は国際社会全体の課題です。この課題に対処するため、これらに関連した資金が国際金融システムを濫用する形で移転していくことを防止することも必要となっています。</p> <p>このような観点から、財務省としては、国連安保理決議等を踏まえ、外為法に基づき、様々な制裁措置を講じてきました。具体的には、例えば、テロ資金や北朝鮮の核・弾道ミサイル・大量破壊兵器関連の計画等に関し、制裁対象者に対する資産凍結等措置や資金移転防止措置を講じています。今後とも、関係各国や関係省庁、金融機関等との連携を密にし、当該措置を適時に実施していきます。</p> <p>また、F A T F（金融活動作業部会：用語集参照）やG20等の国際的な枠組みに積極的に貢献し、国際社会と協調して、資金洗浄・テロ資金対策のためのF A T F 勧告の実施等を推進していきます。国内の資金洗浄・テロ資金対策については、令和2年6月のF A T F 全体会合で採択される対日相互審査の結果も踏まえ、引き続き関係省庁等と協力して取り組んでいきます。</p> <p>更に、金融機関等における外為法等の遵守体制の整備・強化を図るとともに、制裁措置の実効性の確保及びF A T F 勧告の着実な実施等を図るため、資金移転の仲介等を行う金融機関等に対して、外国為替検査ガイドラインに基づき、検査の効率性及び有効性を高めることに留意しつつ、外国為替検査を実施していきます。</p>						
定性的な測定指標							
<p>【主要】 政6-1-4-B-1：テロ資金・マネーロンダリングへの国際的な枠組みの中での対応及び国連安保理決議等に基づく制裁措置の適切な実施等</p>							
<p>(令和2年度目標)</p> <p>国連安保理決議等を踏まえ、外為法に基づく制裁措置を適時に実施する等、対外取引に対して適切な管理・調整を実施していきます。</p> <p>また、国際社会と協調し、資金洗浄・テロ資金対策に関するF A T F 勧告の実施等を関係省庁等と協力して推進していきます。</p> <p>更に、金融機関等における外為法等の遵守体制の整備・強化を図るとともに、制裁措置の実効性の確保及びF A T F 勧告の着実な実施等を図るため、適切に外国為替検査を実施していきます。</p>							
<p>(目標の設定の根拠)</p> <p>国連安保理決議等を踏まえた外為法に基づく制裁措置及びF A T F 勧告の着実な実施等が、国際金融システムの安定に資するためです。</p>							
定量的な測定指標							
政6-1-4-A-1：外国為替及び外国貿易法に基づく制裁措置の適時実施	年度		平成28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度目標値
	目標値	割合 (%) (b) / (a)	—	—	—	—	100.00
	実績値	割合 (%) (b) / (a)	100.00	100.00	100.00	N. A.	

		(a) 国連安保理決議等を踏まえた外務省告示を新規発出又は廃止した件数	1	2	0	N. A.	
		(b) 外務省告示の整備と同日に財務省告示を整備した件数	1	2	0	N. A.	
<p>(注) 令和元年度の実績値は、令和 2 年 3 月末に確定し、令和元年度の実績評価書に記載します。</p> <p>(目標値の設定の根拠)</p> <p>制裁措置の適時実施のためには、制裁の対象者等を指定する外務省告示が制定された場合、これに対応し迅速に財務省告示を整備することが重要であるため、上記目標値（割合）を設定しました。</p>							
政6-1-4-A-2：外国為替検査の実施状況	年度		平成28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度目標値
	オフサイト・モニタリングの実施件数	目標値	—	—	—	249	238
		実績値	—	—	249	N. A.	
	外国為替検査の実施件数	目標値	—	—	—	110	110
実績値		137	127	123	N. A.		
<p>(注 1) 令和元年度の実績値は、令和 2 年 3 月末に確定し、令和元年度実績評価書に記載します。</p> <p>(注 2) オフサイト・モニタリングとは、平成30年の外国為替検査ガイドラインの制定に伴い、これまで実施していた内部監査ヒアリングを改組し、外為法令等を遵守するための内部管理態勢等に係る報告を求めるもの。</p> <p>(目標値の設定の根拠)</p> <p>制裁措置の実効性の確保及び F A T F 勧告の着実な実施を進めていくために、外為業務の状況や外為法令等を遵守するための内部管理態勢等を定期的かつ継続的に把握するオフサイト・モニタリングや、外為法令等の遵守状況及び内部管理態勢の状況を検証する立入検査を実施しており、いずれも平成30年度の検査実績数及び検査予定数を参考に目標値を設定しました。</p>							
政6-1-4-A-3：外国為替検査等に関する説明会の実施状況（外為法令等遵守に係る説明会実施回数）	年度		平成28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度目標値
	目標値		—	—	—	12	12
	実績値		8	18	34	N. A.	
<p>(注) 令和元年度の実績値は、令和 2 年 3 月末に確定し、令和元年度の実績評価書に記載します。</p> <p>(目標値の設定の根拠)</p> <p>外為法令等遵守に係る説明会については、外為業務の取扱いを行っている金融機関等に対し、各財務局・業界団体が主催する機会を捉えて実施しており、令和 2 年度は大幅な法令等の改正が予定されていないことから、説明会を月 1 回程度実施するよう上記目標値を設定しました。</p>							
今回廃止した測定指標とその理由							
該当なし							
参考指標	○参考指標 1 「テロリスト等に対する我が国による資産凍結措置対象者数【再掲（総5-1：参考指標 3）】」						
	○参考指標 2 「外国為替検査日程の短縮等を行った検査対象先の割合」						

	○参考指標 3 「F A T F 関連会合への出席回数」 ○参考指標 4 「F A T F 勧告に係る演習・研修への参加状況」
--	--

施策	政6-1-5：対内直接投資審査制度の適正な運用
取組内容	<p>我が国への対内直接投資は、我が国経済の健全な発展に寄与するものである一方、投資を通じて、国の安全等に関わる技術情報の流出や事業活動の喪失といった事態につながるおそれを生じうるものです。かかる観点から財務省としては、外為法に基づき、投資の自由を原則としつつ、一定の対内直接投資については国の安全等の観点から事前に審査する制度を設け、こうした懸念に対応しています。</p> <p>昨今、我が国経済の健全な発展に寄与する対内直接投資の促進はその重要性が一層増す一方、諸外国において自国の安全や公の秩序を損なうおそれのあるものについて対応を強化する動向がみられるところであり、我が国としてもかかる対応の強化を検討する必要性が生じています。こうした状況を踏まえ、以下の取組を行ってまいります。</p> <p>A 外為法令の改正を通じた対内直接投資審査制度の適切な整備</p> <p>我が国経済の健全な発展に寄与する対内直接投資を一層促進するとともに、我が国の安全等を損なうおそれのあるものに対応する観点から、令和元年11月に国会で成立した改正外為法の運用に必要な同法に基づく政省令等の整備を適切に行います。</p> <p>B 対内直接投資審査制度の適正な運用</p> <p>対内直接投資の迅速かつ適切な審査の実施に努めるとともに、対内直接投資審査制度の内容の周知・徹底を図るために市場関係者等の正確な理解に寄与する情報提供を行うことで、円滑かつ着実に対内直接投資審査制度を運用してまいります。</p>

定性的な測定指標

[主要] 政6-1-5-B-1：実効性のある対内直接投資審査制度への取組[新]

(令和2年度目標)

迅速かつ適切に審査を実施するため、国内関係省庁や各国当局との情報交換や対内直接投資審査制度に関する協議を行うなど緊密に連携し、実効性のある制度の整備と運用に取り組みます。

(目標の設定の根拠)

対内直接投資審査制度の実効性を確保するためには、国内関係省庁や海外当局との連携が重要かつ不可欠と考えられるためです。

今回廃止した測定指標とその理由

該当なし

参考指標	○参考指標 1 「我が国への対内直接投資残高」
-------------	-------------------------

政策目標に係る予算額	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度当初	令和2年度行政事業レビュー番号
(項) 事務取扱費	1,673,914 千円	1,937,524 千円	2,082,727 千円	1,923,675 千円	/
(事項) 外国為替市場及び国際金融システムの安定に必要な経費	1,673,914 千円	1,937,524 千円	2,082,727 千円	1,923,675 千円	
(項) 諸支出金	121,320,152 千円	176,114,433 千円	249,725,146 千円	187,399,308 千円	

(事項) 手数料等に必要な経費	121,320,152 千円	176,114,433 千円	249,725,146 千円	187,399,308 千円	
(項) 融通証券事務取扱費一般会計へ繰入	731 千円	731 千円	732 千円	813 千円	
(事項) 融通証券事務取扱費の財源の一般会計へ繰入れに必要な経費	731 千円	731 千円	732 千円	813 千円	
(項) 国債整理基金特別会計へ繰入	490,969,382 千円	492,384,010 千円	494,452,555 千円	494,602,131 千円	
(事項) 国債整理基金特別会計へ繰入れに必要な経費	490,969,382 千円	492,384,010 千円	494,452,555 千円	494,602,131 千円	
合計	613,964,179 千円	670,436,698 千円	746,261,160 千円	683,925,927 千円	

(注) 「政策目標に係る予算額」の表中には、政策目標 6 - 1 に係る予算額を記載しています。

担当部局名	国際局（総務課、調査課、国際機構課、地域協力課、為替市場課）	政策評価実施予定時期	令和 3 年 6 月
--------------	--------------------------------	-------------------	------------

○ 政策目標 6 - 2 : 開発途上国における安定的な経済社会の発展に資するための資金協力・知的支援を含む多様な協力の推進

**政策目標の内容及び
目標設定の考え方**

世界経済の中で大きな地位を占める我が国として、自由かつ公正な国際経済社会の実現やその安定的発展に向け、開発途上国における貧困や地球環境問題等の課題への対応を含む国際的な協力を積極的に取り組むことが求められています。こうした状況に鑑み、我が国の厳しい財政状況や国民のODAに対する見方も踏まえつつ、開発途上国における安定的な経済社会の発展に資するための効果的かつ効率的な資金協力等を実施していきます。国際協力機構（JICA）の有償資金協力や国際協力銀行（JBIC）による支援については、現地の経済社会への貢献等の要素を備える「質の高いインフラ投資」の実現も含め、開発途上国の経済社会の発展を支援していく観点から、重点的に取り組んでいきます。

上記の「政策目標」を達成するための「施策」

政6-2-1 : ODA等の効率的・戦略的な活用

政6-2-2 : 有償資金協力（国際協力機構（JICA））を通じた支援並びに国際協力銀行（JBIC）及び国際開発金融機関（MDBs）を通じた支援等

政6-2-3 : 債務問題への取組

政6-2-4 : 開発途上国に対する知的支援

関連する内閣の基本方針

- 「インフラシステム輸出戦略」（平成25年5月17日第4回経協インフラ戦略会議決定、平成27年6月2日、平成28年5月23日、平成29年5月29日、平成30年6月7日、令和元年6月3日改訂）
- 「開発協力大綱」（平成27年2月10日閣議決定）
- 「質の高いインフラ輸出拡大イニシアティブ」（平成28年5月23日公表）
- 「未来投資戦略2018」（平成30年6月15日閣議決定）
- 「成長戦略フォローアップ」（令和元年6月21日閣議決定）
- 「経済財政運営と改革の基本方針2019」（令和元年6月21日閣議決定）
- 「安心と成長の未来を拓く総合経済対策」（令和元年12月5日閣議決定）

施策 政6-2-1 : ODA等の効率的・戦略的な活用

取組内容

我が国は、持続可能な開発のための2030アジェンダ（用語集参照）やODA等に関する様々な国際公約の達成に向けた取組を積極的に推進する一方、我が国の厳しい財政状況や国民の視点を踏まえると、ODAについてはこれまで以上に戦略的な実施や開発効果の向上等に努めていくことが課題となっており、平成27年2月10日に閣議決定された「開発協力大綱」でも示された通り、ODA等について一層の重点化・効率化を図ることが求められています。

財務省は、関係省庁間で密接な連携を図りながら、有償資金協力（円借款（用語集参照）等）・技術協力・無償資金協力の一体的活用、国際開発金融機関（Multilateral Development Banks: MDBs）（用語集参照）及び諸外国との援助協調の推進、国別援助方針の策定、ODA評価の充実、NGOや民間企業等との連携、国際協力銀行（JBIC）の機能強化等に取り組んでいるところであり、引き続きODA等の効率的・戦略的な活用に取り組んでいきます。

定性的な測定指標	
	<p>【主要】政6-2-1-B-1：円借款を通じたODAの効率的・戦略的な活用</p> <p>(令和2年度目標)</p> <p>円借款等を実施するに当たって、適切な事業規模の確保、他機関との連携及び必要に応じた制度改善等を通じて、その効率的・戦略的な活用を図っていきます。</p> <p>(目標の設定の根拠)</p> <p>我が国の経済・財政状況が厳しい中、幅広い国民の理解を得てODAを実施していくためには、効率的かつ戦略的に援助を実施していく必要があるためです。</p>
	<p>政6-2-1-B-2：国際協力銀行（JBIC）を通じたその他の政府資金（OOF：Other Official Flows）の効率的・戦略的な活用</p> <p>(令和2年度目標)</p> <p>JBICの機能強化及び他機関との連携を通じて、開発途上国の安定的な経済社会の発展や、地球規模課題の解決に貢献していきます。</p> <p>(目標の設定の根拠)</p> <p>「開発協力大綱」にも示されている通り、開発協力を実施するに当たって、ODAのみならず、JBICの実施するOOFとの連携を強化し、開発のための相乗効果を高める必要があるためです。</p>
今回廃止した測定指標とその理由	
	該当なし
参考指標	<ul style="list-style-type: none"> ○参考指標1 「開発途上国に対するODA、OOF及びPF（民間資金）の実施状況」 ○参考指標2 「円借款実施状況」【再掲（総5-1：参考指標5）】 ○参考指標3 「円借款の標準処理期間の達成状況」 ○参考指標4 「JICAの詳細型事後評価完了案件の分布」 ○参考指標5 「国際協力銀行（JBIC）の出融資保証業務実施状況」【再掲（総5-1：参考指標6）】
施策	<p>政6-2-2：有償資金協力（国際協力機構（JICA））を通じた支援並びに国際協力銀行（JBIC）及び国際開発金融機関（MDBs）を通じた支援等</p>
取組内容	<p>財務省は、有償資金協力（JICA）を通じた支援やJBIC業務、MDBsに関する業務を所管する立場から、以下の通り取り組んでいきます。</p> <p>A 有償資金協力（JICA）を通じた支援</p> <p>開発途上国に対して、長期・低利の緩やかな条件で開発資金を融資する円借款は、開発途上国にとって必要不可欠な経済インフラの整備や社会開発を推進するために重要な役割を果たしています。その効果を一層高め機動的な円借款の実施を可能とするために、円借款や海外投融資（用語集参照）の更なる迅速化や、ハイスpekク借款（用語集参照）、サブ・ソブリン向け円借款（相手国政府保証の免除）及びドル建て借款といった制度拡充を実施し、その運用をしています。</p> <p>円借款は、返済が求められる有償の資金であることから、債務償還確実性の確保に慎重</p>

を期す必要があります。財務省としては、IMFをはじめとする国際金融機関の知見も活用しつつ、開発途上国の財政や国際収支の状況を分析する等、債務持続可能性に目を配るとともに、世界銀行をはじめとするMDBsとの連携が図られるように意を用いる等、援助効果の向上に努めています。こうした観点から、相手国政府との協議や、それを受けて策定される国別援助方針、更には、個々の円借款の案件の形成に参画していきます。

引き続き、アジア地域をはじめ、世界各地域に対し、その必要性と特性に応じ、世界銀行、アジア開発銀行などの地域開発金融機関との連携を深めながら、開発効果の高い円借款の供与を図っていくほか、更に技術協力・無償資金協力との有機的連携を進めていきます。

B JBICを通じた支援

JBICについては、引き続き、民業補完の原則の下、国策上重要な海外資源確保、我が国産業の国際競争力の維持・向上、地球温暖化の防止等の地球環境の保全を目的とする事業の促進、国際金融秩序の混乱への対処に努め、こうした取組により、開発途上国等の持続的発展に貢献していきます。

また、JBICは、海外発行体が発行するサムライ債（用語集参照）を保証又は一部を取得することにより、同発行体の信用力や債券発行力を補完し、東京市場での知名度を高め、将来的に独力でサムライ債が発行できるよう支援しています。

平成28年には株式会社国際協力銀行法を改正し、更なるリスク・テイクを可能とする「特別業務」を創設しました。

また、令和2年1月には、これまでの「質高インフラ環境成長ファシリティ」(JBIC Global Facility to Promote Quality Infrastructure Investment for Environmental Preservation and Sustainable Growth: QI-ESG)を強化した「質高インフラ環境成長ウィンドウ (QI-ESG)」、及び日本企業の海外M&Aやグローバル・バリューチェーンの再編等を支援する「海外展開支援ウィンドウ」の2つのウィンドウからなる「成長投資ファシリティ」を創設しました。

こうした枠組も活用し、開発途上国等を支援していきます。

C MDBs等を通じた効率的・戦略的な支援

世界銀行、アジア開発銀行等のMDBsは開発援助における豊富な経験を有し、高度な専門知識を持った人材を数多く有するとともに、その広範な情報網を活用して現地の支援ニーズを的確に把握することにより、効果的な援助を行うことができる等の長所があります。MDBsは、貧困削減や包摂的成長の実現に向け、国際開発コミュニティの中で中核的な役割を担うことに加え、気候変動等のグローバルな課題への対応についても重要な役割を果たしています。

我が国は、開発分野で重視するテーマについて、MDBsを重要なパートナーとして協働して取り組んでいきます。例えば、日本議長下のG20の成果である、「質の高いインフラ投資に関するG20原則」を具体的なプロジェクトに反映させていくため、MDBsに設置された日本信託基金を通じ、質の高いインフラ投資の促進を積極的に支援していきます。

併せて、MDBsの主要出資国として、業務運営に積極的に参画し、我が国のODA政策・開発理念や経験・専門的知見をMDBsの政策や業務に反映させ、また、我が国の開発援助にMDBsの経験・専門的知見を活用することで、我が国支援の効果・効率を増大させていきます。例えば、平成30年4月に合意された世界銀行グループの国際復興開発銀行 (IBRD) 及び国際金融公社 (IFC) の増資とそれに伴う改革に関して、我が国が

議論を主導し、合意形成に大きく貢献しました。また、令和元年12月には、世界銀行グループで低所得国向け支援を行う国際開発協会（I D A）及びサブサハラの低所得国を支援するアフリカ開発基金（A f D F）について、それぞれ3年に1度の増資が合意されました。I D A増資では、我が国が重視する質の高いインフラ投資や国際保健（ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（U H C：用語集参照）及びパンデミック対応）、債務持続可能性、自然災害に対する強靱性等が主な重点政策に位置付けられ、A f D F増資においても、アフリカ開発銀行自身の実施能力向上を促すとともに、質の高いインフラ投資や債務持続可能性など、我が国のプライオリティが重点政策に反映されております。今後、これらの増資に当たって合意された改革を各M D B s が着実に実施していくよう、我が国としても引き続き働きかけていきます。

さらに、現在行われている、アジア・太平洋島嶼国地域の貧困国を支援するアジア開発基金（A D F）の増資交渉においても、我が国が開発分野で重視するテーマが重点政策と位置付けられるよう、トップドナーとして議論を主導していきます。具体的には質の高いインフラ投資、防災、債務持続可能性を重点政策として位置づけるよう働きかけていくほか、前回増資において、日本の拠出により設置された特別枠（パンデミックへの備え等に資する保健体制の構築支援）を基金本体に取り込み、その支援規模の拡大を図ります。今後とも、政策協議等の場を活用してM D B s 等との意見交換・議論を活発に行っていきます。

D 国際機関と連携したU H C実現のための支援

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（U H C：用語集参照）は平成27年9月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標（S D G s）のターゲットの一つとして挙げられています。我が国は、平成28年5月のG 7伊勢志摩サミットや同年8月の第6回アフリカ開発会議（T I C A D V I）において国際保健を重要な柱と位置付け、U H C推進に係るビジョンを示すなど、国際場裡における議論を先導しています。財務省としても、国際開発金融機関の主要ドナーとして世界銀行等と共同して開発途上国におけるU H C推進のイニシアティブを積極的に進めており、平成29年12月には世界銀行、世界保健機関（W H O）などの国際機関や、厚生労働省、外務省などと共催で「U H Cフォーラム2017」を東京にて開催し、U H C達成の取組を加速させるためのコミットメントとして、U H C達成に向けたグローバルなモメンタムの強化や各国・各機関の連携体制強化等を提唱した「U H C東京宣言」を発表しました。また、平成30年4月にはI M F・世界銀行春会合においてU H C財務大臣会合を開催し、U H C実現に向けた持続可能な保健財政枠組構築のための財務当局の関与の重要性や財務大臣と保健大臣の連携の重要性について発信しました。

こうした取組を踏まえ、日本議長下のG 20においては、世界銀行からのインプットを得つつ、「途上国におけるU H Cファイナンス強化の重要性に関するG 20共通理解」（G 20共通理解文書）を取りまとめ、令和元年6月に開催されたG 20財務大臣・中央銀行総裁会議及びG 20財務大臣・保健大臣合同セッションの双方にて、G 20共通理解文書へのコミットメントを確認することができました。

今後も、関係省庁や、世界銀行・アジア開発銀行・世界保健機関（W H O）といった国際機関と連携を深めながら、U H C実現に向けた議論に積極的に参画していきます。

E 地球環境保全に向けた開発途上国の取組支援

平成27年12月に行われた国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（C O P 21）では、「京都議定書」に代わる、2020年（令和2年）以降の温室効果ガス排出削減等のための新たな

国際枠組である「パリ協定」(Paris Agreement) が採択されました。同協定は平成28年11月に発効し、令和 2 年 1 月より本格実施されているところであり、今後この協定の目的達成に向けた途上国の取組を積極的に支援していきます。

我が国は、世界銀行が管理する信託基金である地球環境ファシリティ (Global Environment Facility : G E F) (用語集参照) 及び気候投資基金 (Climate Investment Funds : C I F) (用語集参照)、更には平成22年の国連気候変動枠組条約第16回締約国会議 (C O P 16) で設立が決定した緑の気候基金 (Green Climate Fund : G C F) (用語集参照) の主要な拠出国となっております。関係省庁と協力し、各基金の評議会等への参加を通じてその活動を支援するとともに、これらの地球環境保全に向けた取組に積極的に参画していきます。

定性的な測定指標

[主要] 政6-2-2-B-1 : 国際開発金融機関 (M D B s) 等を通じた支援への参画

(令和 2 年度目標)

世界銀行グループ、アジア開発銀行等の M D B s 等の主要ドナーとして、業務運営に積極的に参画していきます。具体的には、世界銀行グループ等の増資で合意された政策が着実に実施されるよう、我が国としても働きかけていきます。

また、現在行われているアジア開発基金 (A D F) の増資交渉において、我が国が開発分野で重視するテーマが重点政策と位置付けられるよう、トップドナーとして議論を主導していきます。

(目標の設定の根拠)

M D B s 等の業務運営に積極的に参画し、我が国の O D A 政策・開発理念や経験・専門的知見を M D B s 等の政策や業務に反映させることで、我が国支援の効果・効率を増大させていくことが重要であるためです。

政6-2-2-B-2 : U H C 実現に向けた戦略的な取組への積極的な参画

(令和 2 年度目標)

我が国が国際的取組を先導している U H C の実現に向けた議論に積極的に参画していきます。

(目標の設定の根拠)

開発途上国等の持続的な経済社会の発展のためには、U H C の実現が重要であり、その観点から、議論への積極的な参加と U H C 実現に向けた取組の推進が必要であるためです。

政6-2-2-B-3 : 地球環境保全に向けた議論への積極的な参画

(令和 2 年度目標)

我が国が主要な拠出国となっている地球環境ファシリティ (Global Environment Facility : G E F)、気候投資基金 (Climate Investment Funds : C I F) 及び緑の気候基金 (Green Climate Fund : G C F) の運営に係る議論に積極的に参画していきます。

(目標の設定の根拠)

気候変動等の地球環境問題に対する必要な援助を引き続き提供することにより、開発途上国における地球環境の保全を支援するため、議論に積極的に参画する必要があるためです。

今回廃止した測定指標とその理由

該当なし

参考指標	<ul style="list-style-type: none"> ○参考指標 1 「国際開発金融機関 (MDBs) に対する主要国の出資」 ○参考指標 2 「国際開発金融機関 (MDBs) 等に対する拠出金」 ○参考指標 3 「国際開発金融機関 (MDBs) の活動状況」 ○参考指標 4 「円借款実施状況」【再掲 (総5-1: 参考指標5)】 ○参考指標 5 「国際協力銀行 (JBIC) の出融資保証業務実施状況」【再掲 (総5-1: 参考指標6)】 ○参考指標 6 「国際協力銀行 (JBIC) によるサムライ債発行支援の実績」
-------------	---

施策	政6-2-3: 債務問題への取組
-----------	------------------

取組内容	<p>我が国は、債務問題に直面した開発途上国政府に対し、パリクラブ（主要債権国会合）合意に基づき、公的債権の繰り延べや削減を行っています。近年においては、開発途上国に対する資金援助の構造も変化してきており、中国等をはじめとしたパリクラブ以外の新興援助国や、開発途上国自身による債券発行も含めた民間からの資金が増加する傾向にあります。その一方で、IMFや世界銀行においては、我が国を含めた全ての債権者やドナーが、債務持続可能性分析の枠組に沿った行動をとるよう促しています。</p> <p>財務省としても、債務透明性の向上及び債務持続可能性の確保に向け、積極的に議論に参画しています。特に、日本議長下のG20においては、債務者及び公的・民間の債権者双方による協働の重要性を再確認し、それぞれの取組を継続することに合意しました。また、IMF・世銀の各信託基金（「決定のためのデータ基金」・「債務管理ファシリティ」）等に拠出し、債務国の債務管理能力の構築に向けた技術支援等を実施しています。今後も、債務持続可能性を脆弱なものとする非譲許的借入（用語集参照）の増加等、開発途上国が直面する債務に関する諸問題に対し、IMF、世界銀行、G20やパリクラブ等の国際的枠組において、新興援助国等も含めた包括的な対応の実現に向けて、積極的に議論に参画していきます。</p>
-------------	--

定性的な測定指標

【主要】 政6-2-3-B-1: 債務に関する諸問題についての議論への積極的な参画

(令和2年度目標)

債務持続可能性を脆弱なものとする非譲許的借入の増加等、開発途上国が直面する債務に関する諸問題に関し、IMF、世界銀行、G20やパリクラブ等の国際的枠組において、新興援助国等も含めた包括的な対応の実現に向けて、積極的に議論に参画していきます。

(目標の設定の根拠)

新興援助国や民間からの資金流入の増大等、開発途上国への資金流入状況が変化している中で、開発途上国が債務返済困難に陥らないために積極的に議論に参画していくことが重要であるためです。

今回廃止した測定指標とその理由

該当なし

参考指標	該当なし
-------------	------

施策	政6-2-4: 開発途上国に対する知的支援
-----------	-----------------------

取組内容	<p>開発途上国が持続的な経済発展を進めるためには、財政金融分野等における適切な制度の構築が必要です。また、開発途上国と我が国が貿易投資等の経済関係や、密輸阻止及びテロ防止等のための協力関係を深める前提として、相手国当局の能力強化が重要です。</p>
-------------	---

この観点から、これまでの取組を踏まえつつ、政策担当者等を日本に受け入れての経済財政政策等についての調査研究・セミナー等の実施、開発途上国が抱える政策課題等について現地に専門家等を派遣しての調査研究・セミナー等による技術支援の実施のほか、海外の研究機関との交流を通じ、我が国の経験に裏打ちされた知識やノウハウを提供することで、開発途上国における政策の立案及び実施能力の向上等を目的とした人材育成支援を中心とする国際協力に積極的に取り組んでいきます。

また、開発途上国の税関当局に対しても、WCO（世界税関機構：用語集参照）をはじめとする国際機関等とも連携しながら、税関分野の制度構築・整備、執行改善・能力強化を支援し、我が国との貿易投資等の経済関係及び水際取締りに関する協力関係の強化に取り組んでいきます。

同時に、これまで行った支援の不断の点検と改善を行うことにより、今後実施する支援が質の高いものとなるよう努めます。

政策実施の効果を客観的・定量的に測定することが可能なものとして、「知的支援に関する研修・セミナー参加者の満足度」（研修・セミナーを「有意義」以上と回答した者の割合）を、測定指標として設定しています。

定量的な測定指標

〔主要〕	年度	平成28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度目標値
政6-2-4-A-1：知的支援に関する研修・セミナー参加者の満足度（研修・セミナーを「有意義」以上と回答した者の割合） （単位：％）	目標値	95.0以上	95.0以上	95.0以上	95.0以上	95.0以上
	実績値	99.1	95.8	96.9	N.A.	

（注）令和元年度の実績値は、令和2年6月に確定し、令和元年度実績評価書に記載します。

（出所）関税局参事官室（国際協力担当）、財務総合政策研究所総務研究部国際交流課調

（目標値の設定の根拠）

知的支援の効果・有効性の向上を一層図っていく観点から目標値を「95.0以上」としています。

今回廃止した測定指標とその理由

該当なし

参考指標

○参考指標1「研修・セミナー等の実施状況」

政策目標に係る予算額	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度当初	令和2年度行政事業レビュー番号
（項）経済協力費	77,819,004 千円	81,547,260 千円	98,835,862 千円	77,505,931 千円	
（事項）経済協力に必要な経費	77,819,004 千円	81,547,260 千円	98,835,862 千円	77,505,931 千円	
内 アジア開発銀行等拠出金	30,244,486 千円	33,849,122 千円	29,834,748 千円	29,984,102 千円	0032～0050
内 独立行政法人国際協力機構有償資金協力部門出資金	45,180,000 千円	46,010,000 千円	67,310,000 千円	46,610,000 千円	0051

(財務省2政6-2)

	内 米州投資公社出資金	1,074,907 千円	817,214 千円	802,621 千円	501,861 千円	0052
	その他	1,319,611 千円	870,924 千円	888,493 千円	409,968 千円	行政事業レビュー の対象外
	合計	77,819,004 千円	81,547,260 千円	98,835,862 千円	77,505,931 千円	

(注) 「政策目標に係る予算額」の表中には、政策目標6-2に係る予算額を記載しています。

担当部局名	国際局（総務課、地域協力課、開発政策課、開発機関課）、関税局（参事官室（国際協力担当））、税関研修所、財務総合政策研究所（総務研究部国際交流課）	政策評価実施予定時期	令和3年6月
--------------	--	-------------------	--------

○ 政策目標 6-3 : 日本企業の海外展開支援の推進

政策目標の内容及び
目標設定の考え方

新興国を中心に世界の市場は急速に拡大しており、この成長市場の獲得に向けて、世界各国が激しい競争を繰り広げています。こうした中、日本企業が持つ技術力を始めとした強みを活かし、積極的に世界市場への展開を図っていくことが重要となっています。

世界の膨大なインフラ需要を積極的に取り込むため、政府は「インフラシステム輸出戦略」において日本の「強みのある技術・ノウハウ」を最大限に活かし、2020年（令和2年）に約30兆円（2010年（平成22年）時点で約10兆円）のインフラシステムの受注を達成するとの目標を掲げています。加えて、各地域の膨大なインフラ整備需要に各国・国際機関と協働し、日本の官民の力を総動員して対応すべく、平成28年5月に「質の高いインフラ輸出拡大イニシアティブ」を発表しました。

財務省としては、「未来投資戦略2018」や「インフラシステム輸出戦略」、「質の高いインフラ輸出拡大イニシアティブ」、「安心と成長の未来を拓く総合経済対策」等を踏まえ、下記に掲げる施策等を関係省庁、関係機関と連携しつつ、日本企業の海外展開支援を推進していきます。

上記の「政策目標」を達成するための「施策」

政6-3-1：国際協力機構（JICA）有償資金協力業務、国際協力銀行（JBIC）業務を通じた支援の推進

関連する内閣の基本方針

- 「インフラシステム輸出戦略」（平成25年5月17日第4回経協インフラ戦略会議決定、平成27年6月2日、平成28年5月23日、平成29年5月29日、平成30年6月7日、令和元年6月3日改訂）
- 「開発協力大綱」（平成27年2月10日閣議決定）
- 「質の高いインフラ輸出拡大イニシアティブ」（平成28年5月23日公表）
- 「未来投資戦略2018」（平成30年6月15日閣議決定）
- 「成長戦略フォローアップ」（令和元年6月21日閣議決定）
- 「経済財政運営と改革の基本方針2019」（令和元年6月21日閣議決定）
- 「安心と成長の未来を拓く総合経済対策」（令和元年12月5日閣議決定）

施策

政6-3-1：国際協力機構（JICA）有償資金協力業務、国際協力銀行（JBIC）業務を通じた支援の推進

取組内容

新興国を中心とした急速に拡大しているインフラ需要に対応するため、日本企業が持つ技術力を始めとした強みを活かし、日本企業の世界市場への積極的な展開を支援することが求められています。日本企業の海外でのビジネス展開に対しては、これまでもJICAによる有償資金協力やJBIC等を通じた支援を行ってきたところですが、国際的な競争が激しくなっている分野の案件や民間の金融機関で対応できないリスクの高い案件については、官民あげて一層取り組む必要があります。財務省は、「インフラシステム輸出戦略」や「安心と成長の未来を拓く総合経済対策」等に盛り込まれている当該施策について、経協インフラ戦略会議における議

論にも参加しながら、JICAによる有償資金協力やJBICの出融資保証業務の枠組みを活用して、ファイナンス面から日本企業の海外展開支援をより一層支援していきます。

A JICAによる有償資金協力を通じた支援

JICAによる有償資金協力については、政府が発表した「質の高いインフラパートナーシップ」(平成27年5月)及び「質の高いインフラ輸出拡大イニシアティブ」(平成28年5月)等において、質の高いインフラ輸出促進のための更なる制度改善を進めることとされています。これらを踏まえ、新興国・開発途上国の経済社会の発展と日本経済の活性化を支援するため、本邦技術活用条件(STEP:用語集参照)による円借款供与をはじめとする着実な支援を実施するとともに、関係省庁・関係機関との連携を図りつつ、円借款の更なる迅速化等に努めるなど、制度改善を実施してきました。具体的には、STEPについて、平成30年12月に、入札における競争性の向上及び応札企業の価格競争力強化等に資する制度改善を行いました。また、JICAが海外投融資(用語集参照)業務で出資する際の現地企業等への直接出資にかかる限度額について、原則は25%以下であるところ、質の高いインフラの推進に資する事業については50%未満とする出資比率上限規制の柔軟化を実施しました。

こうした制度改善等を踏まえ、有償資金協力の活用を通じて日本企業の参画を支援することで、新興国・開発途上国を支援しつつ、各国の成長を取り込み、日本経済の活性化の実現を図ります。

B JBICを通じた支援

JBICを通じた支援については、平成27年5月21日に発表された「質の高いインフラパートナーシップ」等を踏まえ、民間の資金・ノウハウを活用した海外のインフラプロジェクト等について、日本企業の海外展開をより一層後押しするため、平成28年5月18日に改正した株式会社国際協力銀行法(平成23年法律第39号)においては、更なるリスク・テイクを可能とする「特別業務」を創設するなど、リスクマネー供給拡大のための機能を強化しました。また、「成長戦略フォローアップ」等を踏まえ、技術優位性等を持つ日本企業による海外展開を支援し、日本企業によるイノベーションと新規事業投資を促進するため、令和2年1月に株式会社国際協力銀行法施行令(平成23年政令第221号)の一部を改正し、JBICによる支援の対象となる先進国向け事業を追加しました。

加えて、令和2年1月には、「安心と成長の未来を拓く総合経済対策」に基づき、海外リスクの顕在化に備えて、日本企業による海外展開を強力に支援すべく、「成長投資ファシリティ」を創設しました。同ファシリティは、これまでの「質高インフラ環境成長ファシリティ」(JBIC Global Facility to Promote Quality Infrastructure Investment for Environmental Preservation and Sustainable Growth:QI-ESG)を強化した「質高インフラ環境成長ウィンドウ(QI-ESG)」及び日本企業の海外M&Aやグローバル・バリューチェーンの再編等を支援する「海外展開支援ウィンドウ」の2つのウィンドウからなるものです。

今後とも、JBICが有する様々なツールを一層活用し、開発途上国等海外の経済社会の発展を取り込み、日本企業の積極的な海外展開を一層支援できるよう、財務省として積極的に取り組んでいきます。

定性的な測定指標

政6-3-1-B-1：国際協力機構（JICA）による有償資金協力を通じた効率的・戦略的な支援の取組

(令和2年度目標)

日本企業の優れた技術・ノウハウを新興国・開発途上国に提供することを通じて、各国の成長を取り込み、日本経済の活性化につながるよう、JICAによる有償資金協力を通じた支援を着実に実施していきます。

(目標の設定の根拠)

我が国が新興国・開発途上国の持続的な経済社会の発展を支援しつつ、日本企業の海外展開を支援していく上で、JICAによる有償資金協力が重要なツールの一つであるためです。

[主要] 政6-3-1-B-2：国際協力銀行（JBIC）を通じた効率的・戦略的な支援の取組

(令和2年度目標)

JBICにおいては、更なるリスク・テイクを可能とする「特別業務」や「成長投資ファシリティ」等のツールを活用し、日本企業の海外展開をより一層後押ししていきます。

(目標の設定の根拠)

日本企業の海外展開を支援していく上では、様々な機能強化等を行ってきているJBICによる出融資保証業務が重要なツールの一つであるためです。

今回廃止した測定指標とその理由

該当なし

参考指標

- 参考指標1 「円借款実施状況」【再掲（総5-1：参考指標5）】
- 参考指標2 「国際協力銀行（JBIC）の出融資保証業務実施状況」【再掲（総5-1：参考指標6）】
- 参考指標3 「海外インフラ案件の受注金額」【再掲（総5-1：参考指標7）】

政策目標に係る予算額

平成29年度

30年度

令和元年度

2年度当初

令和2年度行政事業レビュー番号

上記の政策目標に関連する予算額はありません。

担当部局名

国際局（総務課、開発政策課）

政策評価実施予定時期

令和3年6月